

宗谷

宗谷教職員組合

「宗谷情報」No. 3 平成30年10月1日発行
発行責任者:古川 正史

〒097-0004 稚内市緑2丁目4-21 宗谷教育会館
Tel 0162-22-2480 FAX 0162-22-2484
web: http://www.soya-teachers.org Mail: info@soya-teachers.org

メールは
こちら



春からの活動を振り返る 中央委員会開催!

数年ぶりの 教育会館での開催!

九月一日に宗谷教職員組合第五十二回中央委員会を行いました。各市町村・学校で行事や研修などが重なる日程の中、代議員を生み出していただきありがとうございます。発言内容では各支部・分会の奮闘状況が多く語られ、たくさん学ぶことができたのではないでしようか。

組合だからできる交流

利尻支部からは七月に「どんぱ」が行われ、働き方改革についての学習会をしました。この日は道教組本部から斉藤書記長も参加しました。利尻富士町は当日の午前中に子どもたちのマラソン大会がありました。みなさんに参加していただきました。全体で学習してからはグループに分かれ、「うちの学校はね…」と話し合いました。

とどんぱが終わったあとは利尻町・利尻富士町交流会が開催されました。「同じ島なのに

交流が少なかった。組合に集う仲間だからこそやりやすいことなのかもしれない。今後計画して交流を深めていきたい。」と語られました。

声をかけ続ける大切さ

幌延支部からは組織拡大についての発言がありました。数年前までは宗谷ではなく留萌管内だったことから最初は支部がなく、連絡会のような状況から始まり、少しずつできるこ

とから支部活動を進めてきた経過があります。

そんな中、昨年度は新規採用の二人の先生に声をかけ続けてきました。今年の春、二人の先生から「組合に入ります!」と決意していただきました。幌延支部の粘り強い取り組みに、我々が学ぶことは大きいのではないでしようか。



学校へ「人事の取り組み」

稚内南小学校では、新年度を迎えるにあたり、学校づくりと人事の取り組みで奮闘されたことが話されました。分会の中だけではなく職場全体で「理解と納得」を深めあい、それぞれが「よし頑張ろう」と決意できました。

教育の現場は忙しさに追われる毎日ですが、宗谷の教育の一つである、「みんなで力合わせ」の実践に取り組んで行きましょう。

一部の発言を取り上げましたが、ほかの支部からも各学校・支部での奮闘の様子も語られ、困っていることも語られました。これからの学校づくり・組合活動に生かすことできる豊かな会になったと思います。宗谷教職員組合では秋に中央委員会、春に定期大会を行っています。広い宗谷管内、なかなか集まるのが難しい現実ですが、今回のように各支部のみなさんが集う機会には自分の学校・支部以外の話を聞くことができる貴重な機会です。定期大会ではみんなで参加しましう。

頑張っている教職員のための

全教共済です!

総合共済に加入されている方に

お見舞い金5000円!

九月は台風・地震と自然災害が重なりました。胆振のみなさんの一日も早い復興を願っています。カンパ金のご協力もお願いします。

北海道胆振東部地震ですが、北海道が全百七十九市町村を対象に災害救助法を適用しました。長いところでは二日間にわたり停電し、物流に関してはようやく元に戻ってきたな…と感じる最近です。

総合共済には「救助法適用見舞金」というお見舞い金があり、災害救助法が適用となった市町村に住まれている方を対象に支払われます(今回は8月中までに加入済の方)。手続きは分会単位で行うことになっています。対象者のいる学校には分会直送で先週送っています。災害が来ないことが一番ですが、宗谷では四年前の礼文島土砂災害でもお見舞い金が支払われている方がいます。年度内に職場の中で3名以上が新規加入すると、職場としてお菓子の詰め合わせがもらえます!この機会にお祝い金も充実している総合共済にみなさんで声をかけ合って加入しましょう!

また全教共済では医療共済や年金共済、自動車共済などもあります。年金共済は個人年金として年末控除の対象にもなりますし、自動車共済は万が一の時に教員としての身分を守るために頑張ってくれる専門の窓口があります。ご質問などは宗谷教職員組合まで気軽にお問い合わせください。



あなたを
マモルン!

秋の教研集会

昨年度から始まりました秋の教研集会は十月六日(土)十四時から宗谷教育会館で行います。昨年度は道徳についてみんなで考え合いました。今年は部活動について考え合います。

働き方改革に関わる学習会を夏に行いましたが、アクションプランの中にも部活動について書かれています。そして九月、北海道教育委員会では「北海道の部活動の在り方に関する方針(素案)及び道立学校に係わる部活動の方針(素案)」に係わる意見募集についてとしてパブリックコメントを募集しています。中学校の教職員としてはとても気になる部活動です。稚内市には部活動指導員も入っています。これまでの半年を振り返りながら今後の部活動を考えましょう。それぞれが持つ思い・意見を語り合うことで新しい視点が見えてくる可能性は大きいのではないのでしょうか。もちろん小学校の教職員にとっても他人事ではありません。自分の地域の教育を見つめながら語り

「学びたい」に
応えたい

合いましょう。当日、お待ちしております。

合同教育研究全道集会

毎年行われている合同教研の時期になりました。十一月三日(土)～四日(日)に札幌市内の会場で行われます。各教科・テーマ別に分科会も行われ、二日間に及び大きな研究大会です。全道の実践を学ぶ貴重な機会です。ぜひ参加し



出発点はいつでも「子ども」

「センセー、神奈川あつつかった??」。…個性いっぱいの子供の中にも抜群の存在感を放つ、セイヤくんと2学期はじめのやり取りです。

8月、私は教育科学研究会の全国大会に参加してきました。学生時代「子ども理解」について専門的に学び、子どもをわかった気でいた自分。4年目になった教員生活の中で、その考えの甘さや未熟さを痛感するできごと

に何度も遭遇してきました。「これで子どもはのってくる!」そう感じて挑んだ授業はことごとく失敗し、「これで問題は解決した」と思った途端に別の問題が噴出する。特に初任の年はこの繰り返しでした。そこには、技術だけでなく「子どもを深く理解しようとする目と感性」、「子どもの実像、内面世界への想像力」が足りていなかったのだと考えます。つまり「子どもを丸ごとつかむ」という、民教で古くから大切にされてきた発想が欠落していたということです。

私自身、教育科学研究会や臨床教育学会、合同教研等の場でレポートしたり、討議することを通して官製とは違う場での学びを大切にしています。民教と官製研の違いは、出発点が「目の前の子ども」であるかどうかです。後者は、学校、教員の実情や意向など関係なく半ば強制的に参加を義務づけられ、目の前の子どもの育てる方向性を型にはめ、画一的な「作品」をつくることを求めているように感じられます。しかし、私たちの仕事は二度とこないその瞬間に、絶えず考え、判断し、実行し、反省することを繰り返す子どもとの抜き差しならない関係のもと成立するものです。自ずと研修の中心は目の前の子どもになります。残念ながら官製研では、ここが丸ごと抜け落ちている、そんな印象をぬぐいきれません。

中教審から「学び続ける教員像」が示される中、私たちが多くの学びを獲得する対象は目の前の子どもであり、学校内や民教の場です。自分自身の実践を書き、意見をもらい、また考え、歩みだすという、一連の中で教員の成長が図られるのだと私は考えます。こういった学びの形を支部・分会にも広げていきたい、そんなことを願っています。

書記次長・利尻中 相座

ませんか?
参加の仕方としては二つの方法があります。一つ目はオプザーバー参加です。自分の学びたい分科会に参加して、レポーターの発表を聞き、質問や意見をいうことができます。二つ目はレポーター参加です。自分の日頃の実践をレポーターにまとめて発表します。最初はとても緊張しますが、自分の実践にたくさんのお言葉を頂ける嬉しい機会になります。
また一日目の夜は全道の仲間と交流会を行います。美味しいものを食べながら分科会で語り合

えなかったこと・語り忘れたことで盛り上がりましょう。少しでも気なっただ方は、分会長へ相談をお願いします。
どどんば
九月十五日は礼文で行われました。管内研に向けて、指導案の交流を中心に行いました。次回は十月二十六日(金)、稚内開催です。平日の夜ですが、みんなで教育について語り合いたいです。大きな学習会も大切ですが、日々振り返ることも大切です。管内研や合研に参加しながらも、短い時間で実践交流をしましょう!



先日は稚内市沼川で気温が氷点下を記録するなど季節はどんどん進んでいます。海浴いを車で走っていると、竿の柱がたくさん並んでいます。改めて宗谷の資源の豊かさを感じるとともに、「も



うすぐ冬だな…」という気持ちにもなります。

学芸会や文化祭など、忙しい時期に入りますが、体調には気を付けていきましょう。

(えんどー)